東大島 文化センター 成果発表会

文化センター講座受講生、自主グルース・施設利用団体の 皆さんの一年間の練習成果を合同で発表します。 ぜひご来場ください。(会場:4階レクホール)

## 2/27日(土)13:00開演

13:00~ 講座:こどものためのクラシックバレエ

## 2/28日(日)12:00開演

12:00~ Bright Side Harmony(ゴスペル)

13:00~ 講座:東大島女声コーラス

午前&夜間合同クラス

14:00~ 清水順子ヴォイストレーニング教室

15:00~ プアナニ髙橋ハワイアンフラ東大島

16:00~ スタジオ k a l a m a (フラダンス & ウクレレ)

皆様のご来場をお待ちしておりま?

当日の進行状況により、時間が前後することがあります。 余裕をもってお越しください。

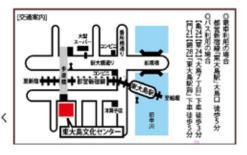
- ~観覧するには事前の申込が必要です~
- ・入場にはチケットが必要です。東大島文化センターへお申込みください。
- ・各グルースの発表後に会場内の消毒作業を行います。続けてご覧の方も 一度ロビーで待機していただきます。
- ・詳しくは東大島文化センターへお問合せください。



公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団 江東区東大島文化センター

TEL. 03-3681-6331 FAX. 03-3636-5825

〒136-0072 江東区大島 8-33-9(地図参照) 休館日:第1+3月曜日、ただし国民の休日にあたる場合を除く ホームページ https://www.kcf.or.jp/higashio.jima



発行:2021年2月



# 東大島文化センター ニュース

1. 第14回東大島おひなさま展/スプリングサンデー 2. 第14回東大島亭/春の講座 受講生遺産

🚡 3. ぶらり小名木川

4. 成果発表会

# 第14回 東大島おひなさま展



春を寿ぐ ちりめん細工

開催中!(3/3(水)18時まで)







江東区在住のちりめん細工講師、三好裕子氏のグループ「江戸の針」による粋 で可愛らしい作品を約500点展示しています。観覧無料です。 ※3/1(月)は休館

# スプ<sup>リ</sup>ッグ<sub>H</sub>ッデー <sup>2021</sup>2/28<sub>目</sub>

フリースタイルフットボールチーム SUR DE WAVE (シュールドウューブ) によるライスパフォーマンス!

おひなさま展 特別体験教室 疫病退散!アマビエ・干支赤べこ



時間: ①10:30~ ②12:30~ ③14:00~(各30分) どなたでもご覧いただけます。





時間: ①10:00~ ②12:30~ (各150分)

対象・定員:大人各10名 費用: 各2,500円

講師:三好裕子(ちりめん細工「江戸の針」代表)

予約制です!参加者募集中!

-4-



注目の若手が隔月で開催する落語会「東大島 亭」。第14回は、滋賀県出身の落語家、三遊 亭わん丈の独演会!趣のある和室で、じっく りとお楽しみください。

3/6 (±)

14:00開演(13:30開場)

第1和室 ※全席椅子席 全席自由 ・般1,500円/ティアラ友の会1,300円 (当日各300円増)

### 安心して来場いただくために



江東区文化コミュニティ財団では、公演実施に際し、江 東区の方針に基づいて財団ガイドラインを作成し 新型 コロナウイルス感染症拡大防止に最大限努めます。

①検温 来館前に検温をお願いします。体調不良等の場

マスクを着用してご来場ください。③手洗い、アルコール消毒 来場 の前後に行っていただきますようご協力ください。 ④お客様同士の間隔確保 接触を防ぐため座席の間隔を空けてい ます。⑤定期的な換気 空調設備による常時換気とともに、ドア・窓を定期的に開放して、換気をしています。

# 春の講座 受講生募集





柳田國男『遠野物語』を読む





はじめてのSNS講座 ~ツイッター・インスタグラム・フェイススック



久染さんと歩く「そめ散歩」 ~道が知っている江戸以前の記憶編~

3/10(7k) 9:00~ 受付開始

さい。

~3/24(水)まで受付けます。 先着順ではありません。定員を超 えた場合は抽選となります。 この他にも人気の講座が多数ござ います。詳しくは3/10発行の広報 紙「カルナビ」3月号をご覧くだ



## 「小名木川駅(北砂2丁目)」

小名木川の河畔(北砂2丁目)に昭和の俳聖、石田波郷(昭和21年から12年間城東 区北砂町(現江東区北砂)に在住)の江東歳時記文学碑がある。その記念碑には「小 名木川駅春の上潮雲るなり」という小名木川駅を詠んだ句が記されている。

私は昭和28年(1953年)北砂2丁目に生まれる。小名木川駅操車場は自宅から目と 鼻の先にあった。小名木川駅の思い出は、町内の人たちが操車場を「ドテ」と呼んで いたこと(向こう三軒両隣)。JR貨物に独身寮があった場所で、日が暮れるまで三 角ベースで遊んだ日々(夏草の匂い)。秋の終わり二階の窓から見た雪の積もった貨 物列車(冬の訪れ)。友だちと進開橋の上から鉄橋を渡る貨物列車の数を数えたこと (レールの走行音)。小名木川駅の思い出は、そのまま子どもの頃(昭和30年代)の 思い出と深く重なり合う。

私が今も住んでいる北砂2丁目にある公園には、小名木川駅の記念碑と貨物列車の 車輪のモニュメントがある。その碑文には「江東区の工業地帯の輸送需要に対するた め昭和4年3月20日、小名木川河畔14,000平方メートルのドッグを備えた水陸連絡貨物 専用駅として、小名木川駅が開業した。初め貨物取扱量50万トンの規模だったが、第 二次大戦中の昭和18年(1943) には130万トンの貨物取扱量を記録、戦後は東京湾の拡 張整備によって、取扱量は急上昇。豊洲ふ頭が完成した昭和30年には146万トンを記 録、2年後には初めて200万トンを超えた。「~中略~]両国、錦糸町、亀戸の3駅の貨 物取り扱いを廃止、小名木川に貨物部門を集約。駅も290万トンの取扱量をこなせる よう改良された。しかし大工場の郊外へ移転、輸送形態の変化、エネルギー資源の石 炭から石油への移行などが原因で輸送量は減り、「~中略~]全盛期の4分の1の74万 トンになった。当時の小名木川駅の面積は、東京ドーム球場の2倍以上の10万8千平方 メートル。」と記されている。

小名木川駅は一つの時代の終わりを告げ、2000年(平成12年)12月2日に廃駅とな る。市民の暮らしを支えてきた小名木川駅の跡地は、2010年(平成22年)複合商業施 設「アリオ北砂」に生まれ変わり、今も地域の人々の生活を支えている。

なお、廃駅後も駅東側にある明治通りの交差点名は「小名木川駅前」と現在も当時 のまま表示されている。小名木川駅はいまでもこの町に生き続けている。



▲北砂2丁目 「江東歳時記文学碑」



▲当時の貨物線で実際に 使用されていた車輪 (北砂2丁目公園)



▲明治通り北砂2丁目 「小名木川駅前」交差点